

チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 124 2023 年 2 月 17 日発行



チェルノブイリ原発事故から 37 年 福島原発事故から 12 年

中筋純さん 講演会

チェルノブイリと福島
～原発事故を後世にどう伝えていくか～

日時：4 月 15 日（土）13：00～15：00

会場：zoom によるオンライン開催

チェルノブイリと福島を撮り続ける写真家 中筋純さんにお話していただきます。原発事故に関する報道は非常に少なくなっていますが、今も被害に苦しむ人がいることを伝え、支援を呼びかけます。詳細は同封のチラシをご覧ください。



写真上 2 枚：ウクライナ「ナロジチ初期医療ヘルスケアセンター」

寄贈した自動血液分析装置と検査を受けに来た母子（本文 p. 2）

写真中：ウクライナ「オウルチ市立病院」に届いた医薬品（本文 p. 4）

写真下：クリスマス会に参加したベラルーシの子どもたち（本文 p. 9）



*** 目次 ***

p.2～4 ウクライナ緊急支援

p.5 2023 年支援計画

p.6～8 ウクライナからの便り

p.9 子どもたちへのクリスマスプレゼント

p.10 里親のページ

p.11 チェルノブイリの歌声

p.12 2022 年度決算報告書

p.13 募金・救援状況

p.14 事務局から

ウクライナ緊急支援の報告

昨年 2 月 24 日、ロシア軍がウクライナへ大規模な侵攻を開始してから早くも 1 年を迎えます。現在も日々、各地への攻撃が相次ぎ、多くの市民が犠牲になっています。私たちのパートナー団体であるウクライナの NGO「チェルノブイリの子どもたちの生存」(*以下「子どもたちの生存」)をはじめ現地関係者と連絡を取り合う中でも、「ミサイル攻撃」、「停電」、「断水」といった言葉のやりとりが日常化しています。一方どうにか国外へ避難できた人も、自身の暮らしや将来への不安とともに、国内に残る家族や友人への心配が尽きません。

みなさまから寄せられた「ウクライナ緊急支援金」の用途についてご報告いたします。子ども基金では今後もウクライナ緊急支援を継続して参りますので、引き続きご協力をお願い致します。

* * * * *
緊急支援先は以下の通りです。

① ナロジチ公立 初期医療ヘルスケアセンター

かつて子どもたちの保養の引率者として参加したオレーナ医師が働いています。子ども基金ではその後も継続して彼女と連絡を取り合っており、「2023 年チェルノブイリ救援カレンダー」表紙の子どもたちの近況も知らせてきてくれました(前号ニュースレターに掲載)。

② オヴルチ子ども芸術アカデミー

教室に通う子どもたちは、これまで子ども基金の夏の保養に参加してきました。

③ オヴルチ市立病院

以前、子ども基金は未熟児用の保育器を支援しました(p.4 参照)。

④ チェルノブイリ被害者の若者への直接支援

かつて子ども基金が招聘したウクライナの子ども民族音楽団「チェルボナ・カーリーナ」の団員であった一人の若者に支援金を送りました(p.6 参照)。

私たちは、ナロジチの住民、特に村の住民に一次医療を提供しています。現在、戦争と COVID-19 のパンデミックという状況下で、医療従事者たちに過大な負担がかかっています。ご存知のように、この地域は放射性物質によって最も汚染されており、人々はチェルノブイリ事故に関連した病気に苦しんでいます。特に子ども世代には、貧血の血液検査を緊急に必要としています。子どもにも大人にも、必要な医療をすべて提供するという点で、今非常に困難な状況にあります。町から遠く離れた村に住んでいる人々は、医療施設にやってくるすべての必要な検査を受けたり、薬を購入したりする機会がいつでもあるとは限りません。私たちはこのような住民たちへ医療を提供しています。緊急に購入が必要な医療機器、医薬品のリストをお送りします。

所長ナタリヤ・クリムチュク、医療部門長オレーナ・ミシューク、スタッフ一同より心からお礼を申し上げます。

2022 年 11 月 15 日

① ナロジチ公立 初期医療ヘルスケアセンター (ジトーミル州ナロジチ)

「私たちの病院と患者たちへのお気遣いと支援のお申し出に深い感謝の意を表します。

★写真左：ナロジチ初期医療ヘルスケアセンターの医師と医療スタッフ

写真右：検査を受ける生後 2 ヶ月のカーリーナちゃん
2023 年 1 月 5 日撮影



★支援要望リストにあった自動血液分析装置は昨年12月16日にセンターに納入されました。しかし電力設備への攻撃による度重なる停電により、しばらく使用ができませんでした。そして年明けの1月4日、ようやく血液分析装置が使えるようになったとの連絡があり、翌日には写真も送られてきました（表紙にも掲載）。その後、センター長の人事異動があり、支援要望のディーゼル発電機と医薬品の購入手続きが少し遅れている、という連絡がありました（2月4日）。ナロジチの電力の状況はキエフ（キーウ）よりも良いけれど、連日の空襲により、キエフもジトーミルも、ウクライナの他の地域と同様に人々の生活に支障をきたしている、とのことでした。

② オヴルチ子ども芸術アカデミー （ジトーミル州オヴルチ）

「チェルノブイリ子ども基金のみなさま、子どもたちへのクリスマスプレゼントに感謝します。子どもたちは今でもクリスマス会とプレゼントのことを、あたたかい気持ちで思い出しています。またこの度はラップトップ・コンピューターのご支援をありがとうございます。子どもたちの美術教育をより深く豊かに行うことに役立つものです。

現在、子ども芸術アカデミーには、オヴルチと近隣の村から100人以上の子どもたちが参加しています。遠隔学習が数か月続き、彼らは友だち同士の交流ができませんでした。オヴルチ市がやっとすべての教育機関への通学を許可したとき、子どもたちはとても喜びました。子どもたちはこのアカデミーでとても熱心に学んでいます。しかし 残念ながら

ベラルーシの軍用飛行場から飛行機が離陸するときには授業を中断しなければならないことが頻繁にあります。毎日の空襲警報は子どもたちの心に大きな負担をかけています。楽しい授業の時間を、防空壕（学校のある建物の地下にある部屋）で長時間を過ごすなければならないのです。

私は子どもたちに、今何が欲しいかと尋ねてみました。すると全員揃って、何よりも戦争が終わってほしいと答えました。ジェレーズヌィ・ポルト（*1）の海に行きたい、と答えた子どももいました。私は、そこは無理だよと言いました。カルパチア（*2）であれば行けるのかもしれないけれど…

2023年2月5日

ニコライ・クリモヴィチ

「子ども民族芸術・工芸アカデミー」校長

ウクライナ人民芸術家」

*1: 2021年まで子ども基金が保養プロジェクトを開催した南部ヘルソン州の海辺の町。

*2: ウクライナ西部の山岳地帯。

★コンピュータは2月7日から教室で使用できるようになったと連絡がありました。

★写真左：教室の様子。左側手前がニコライ校長。壁に飾ってあるのは木工細工の子どもたちの作品。

写真右：子どもアカデミーの教師、タチヤナさんと子どもたち。タチヤナさんはこのアカデミーの卒業生です。アカデミーの生徒だった子ども時代、ジェレーズヌィ・ポルトで行われた子ども基金の保養に参加しました。日本からの支援にとっても感謝しているとのことでした。

2月9日撮影



③ オウルチ市立病院

(ジトーミル州オウルチ)

「以前に保育器をご支援いただき大変感謝しています。保育器は私たちの小さな患者たちのために、いまでも使われています。

当院では2月24日から今日まで、340人の子どもに医療を施しました。産科では165人の子ども（男の子81人、女の子84人）が生まれました。

戦争が始まった頃、私たちの病院の医師や看護師のうち何人かが外国へ避難したため、スタッフや、さらに医薬品の確保に問題が生まれました。しかし心ある人々のおかげで、すでにうまくいっています。

私たちの町も爆撃を受け、病院の建物も被害を受けました。修復工事が行われています。

しかし、戦争が続いているため、医薬品や医療機器がさらに必要です。

ご支援とあたたかいお心遣いに感謝いたします。

2022年11月15日

院長 ワレンチーナ・シュバン」



オウルチ市立病院の院長（写真向って右）と医療スタッフ



左：小児科の患者と母親



右：看護師長エレナさん

★2月7日、医薬品の一部が病院に届き、その様子の写真が送られてきました。表紙写真は病院薬剤師のオクサーナさん。

★2月9日、残りの医薬品も届いたと連絡があり、以下の手紙とさらに写真（この頁の左下）が送られてきました。

「私たちの国が困難な時、このようなご支援をいただき深く感謝いたします。私たちスタッフはみなさんのあたたかい心を感じながら、自分たちの仕事を続けています。小児産婦人科のための医薬品と吸入器が届きました。みなさんは私たち、将来と、人の善行、そして明日を信じさせてくれています。残念ながら、私たちの病院が完全に機能するために問題を解決するには、多くの時間がかかってしまうということが常にあります。もし可能であれば、さらに婦人科の検査・手術用のライト2台のご支援をお願いできれば、とてもありがたいです。

みなさまの幸福と活動のご成功をお祈りします。

2023年2月9日

院長 ワレンチーナ・シュバン

スタッフ一同より」

2011年に寄贈した保育器について 【基金ニュースNo. 88（2012年3月発行）より】

「大変すばらしい医療機器をいただき、言葉にできないほど感謝しています。ジトーミル州には、このような保育器は今まで1台しかありませんでした。それはここから遠い町の病院です。この保育器のおかげで、この産院で500グラムからの赤ちゃんを助けられるようになりました。保育器の中で乳児の体温調節ができ、移動させることなくレントゲン撮影もできます。今後、この保育器のおかげでより子どもを助けることができるようになります。



★ 2023 年 の 支 援 計 画 ★

みなさまの募金のおかげで 2022 年もチェルノブイリの子どもたちへの支援活動を行うことができました（詳細は 12 頁の決算報告に記載）。ご支援に心よりお礼を申し上げます。

2023 年もウクライナ緊急支援を継続します。現時点では、ウクライナ国内でも戦争による危険性が低く、また放射能汚染も少ないことから過去にも基金のプロジェクトを行ったことがある、同国西部地域での保養を検討しています。現地 NGO と相談をしながら、子どもたちの安全を最優先して進めていきます。

<ベラルーシ>

●子ども健康回復センター「ナデジダ（希望）」

- ①「腫瘍病の子どものための保養」
- ②「甲状腺がんの手術を受けた親とその子どものための保養」

●慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」

この団体の里子の支援。「希望」で実施する病気の子どものための保養費用、会員の子どもたちの医薬品代、スタッフ給料と事務所維持費の一部。

<ウクライナ>

●慈善団体「チェルノブイリの子どもたちの生存」

この団体の里子の支援。スタッフ給料と事務所維持費の一部。

●「汚染地域に住む病気の子どものための保養」：ウクライナ西部の保養施設で実施。

●「内分泌代謝研究所」

甲状腺手術後の患者への医薬品代。

●ウクライナ緊急支援

戦争により厳しい状況にあるチェルノブイリ被害者のための生活費、医薬品代、医療費。

ウクライナ

「内分泌代謝研究所」

2022 年は医薬品のための支援金を例年より多く送りました。昨年末に在庫状況を問い合わせたところ「2023 年半ばに薬の在庫がなくなる予定ですので、引き続き支援をお願いしたい」と放射線診断治療部門のセルゲイ医師（写真：22 年 12 月 27 日撮影）より返信がありました。



◆子ども基金では、ウクライナの団体や医療機関、支援対象の人々とのやりとりを主にロシア語を介して続けています。また、現地へ医薬品や医療機器、物資などを届ける際には基金のロゴマークのシールを貼ってもらい、実際に薬を受け取る人や検査を受ける人が、それが日本の募金者のみなさんからの支援であることがすぐに分かるようにしてもらっています。このシールには日本語と英語、ロシア語で「チェルノブイリ子ども基金」とその訳語が表記されています。今回、ウクライナに医薬品・医療機器を支援するにあたって、現地 NGO「子どもたちの生存」代表のザクレフスキーさんに、「現在の状況でロシア語表記のシールを貼っても問題ないか」と相談したところ、以下の返信がありました。

「子ども基金のシールのロシア語表記は問題ありません。ウクライナ東部と南部、首都のキエフ（キーウ）では、多くの人々、特に高齢者はロシア語を普通に話し続けています。そのことで誰にも迷惑をかけたりしていません。憎みの対象はロシア語そのものではなく、時々（複雑な方法で）店に並ぶロシアの商品、ミサイルやその他の武器、嘘と暴力を美化するロシアの本やメディアです。しかし時間が経つにつれてロシア語はウクライナから少なくなっていきますが…」

ウクライナからの便り

昨年 11 月からこれまでに届いたウクライナの人々からの手紙を紹介します。ロシア軍によるインフラ施設の攻撃により停電や断水というニュースが伝えられますが、実際そこで暮らす人々の日常はあまり伝えられていないのではないのでしょうか。また国外へ避難した人たちのその後についてもニュースが少なくなっているように感じます。長引く戦争によりさらに厳しい日常を強いられている人々への支援を続けていきます。

* * * * *

ユーラ（34 歳）：キエフ（キーウ）市在住

両親はチェルノブイリ原発の職員で、原発事故後、住んでいたプリピャチからキエフへ避難。ユーラはキエフで生まれました。現在は母親と二人暮らし。戦争が始まってからは自宅でオンライン業務をしていましたが、11 月初めに勤め先から当分仕事はないと伝えられ、「貯金が底をつき、生活費は母のわずかな年金だけになっている」という連絡がありました。子ども基金から緊急支援金を送りました。

11 月 18 日・19 日

昨日は雪が降り、今日はもう冬の寒さです。支援金をありがとうございます。すぐに母と一緒に食料品を買いに行きました。市場では店の 4 分の 3 ほどが閉鎖されていました。ここで村の人たち（農家）が売っている自然食材は安全で、さらに店で買うよりも安いです。

電力施設への攻撃が起きる前、お金に余裕のある人たちは、町のカフェでコーヒーを飲んでいました。いま人々は少人数で集まり、何かとよく話し合うようになりました。戦時中であるという雰囲気がますます色濃くなってきました。町に出るたびに、貧しい人々がゴミ箱で何かを探している姿を目にします。ゴミ箱の近くに誰もいないということは、まずありません。2014 年以降だったら、そのような人はほとんどが高齢者でした。でも今は、20～30 代の若い男性も見かけます。

町では高齢者や、戦場で負傷し何とか戻って来られた人々の姿をよくみかけます。高齢者の姿が目立つのは、町に若者が少ないせいもあります。私が通りを歩いていると、人々はいつも私のことを見て無言の質問をします。「私の息子は戦争に行っているのに、なぜあなたはここにいますか？」と。公園や家の近くの道路の修理が始まっています。国にはお金がありませんが、公園や道路の修理のためのお金は

あるようです。

友人の両親はキエフで一戸建ての家に住んでいて、電気も暖房もないと聞きました。私の友人にも、同じような状況の人がいます。私の暮らしているトロエシナ地区では水と暖房の問題はありません。ここはキエフの他の地域よりも多くの電力が供給されていますが、それでも定期的に停電しています。

毎日停電が起きているため、新しい生活様式になっています。電気がないと…

料理ができない／買い物ができない（電気がないと店も営業できない）／カードでお金を引き出すことができない（電気がないと銀行業務もできない）／電話が使えない／仕事ができない

電気が 3～4 時間復旧すると、それまでできなかったことを一度にやろうとします。まず食料品の買い出し、調理して、その前にカードでお金を引き出す必要があるかもしれません。電子機器を充電したり、インターネットを使ったり、人と連絡をとったり。全て終わらないうちにまた停電になることもあります。これ以上書いていると、また突然電気が止まり、このメールを送れなくなってしまうので、これでおしまいにします。

11 月 25 日

2 日間、まったく電気がありませんでした。今、早朝ですが、電気が復旧したばかりです。私たちの住んでいる建物は電気が復旧していますが、隣の集合住宅はまだ停電しています。次の停電の前に食事をしなければと、準備をしています。この 2 日間どこもかしこも停電で、まず水を買うことができません（現金で買い物ができる店を除き）多くの店で買い物をすることができませんでした。そして調理ができなかったため、ほとんど食事ができませんでした。これからは調理をしないで食べられるものを買わなければなりません。さらにこの 2 日間、外気温はマイナス 10 度まで下がりましたが、暖房がありませ

んでした。母を連れて町に暖かい食べ物と飲み物を買いに行きました。いまキエフ（キーウ）の町なかではあちらこちらで発電機の音が聞こえます。その店や施設がやっているかどうかは、発電機がそばにあるかどうかでわかります。母は私よりもさらに強く停電によるストレスを感じています。いつも機嫌が悪くて、不満ばかり言っています。わざわざ外出した理由のひとつは、少しでも母の気を紛らわせるためでした。

**ザクレフスキー：キエフ（キーウ）市在住
NGO「チェルノブイリの子どもたちの生存」代表**

11月10日

1日のうちの2回目の停電が復旧し、やっとあなたに返信をすることができます。夕方になるといつも停電するため、夜中にメールを書くことが多くなります。

今週からウクライナとベラルーシの国境周辺の状況が悪化しているため、オヴルチ（ジトーミル州）の小学校はみなりモート授業になりました。「オヴルチ子ども芸術アカデミー」でも子どもたちは自宅で課題を行うことになりました。

11月26日

キエフでは2日間、水と暖房がありませんでした。電力供給は1日に2〜3時間でした。昨夜は、中心部を含めて町全体が濃い霧と暗闇に包まれました。キエフのほとんどの地区ではインターネットが使えません。リュウバ（スタッフの女性）の住んでいる地区では、他の地区に比べて停電があまりないため、電気ヒーターを使うことができました。

昨日電話でヴィーシュホロド市（キエフ州）の友人と話しました。その前日に、キエフのようにミサイル攻撃を受け、アパートが倒壊し、死傷者が出ているとのことでした。

11月29日

支援金の入金を確認しました。ありがとうございます！この2週間で初めてお湯が供給され、いくら暖房が入りました。幸いなことに気温は0度くらいを保っています。計画停電が続いていますが、先

週に比べれば電気を使える時間が長くなっています。

12月11日

一昨日、妻の墓参りにジトーミルに行ってきました。9日の朝、家を出た時も、10日朝に帰宅した時もエレベーターは止まっていました。15階にある自分の家まで階段で上り下りすることにもう慣れました。緊急であれ、計画停電であれ、いつエレベーターが止まるかわかりませんから。

このあとに紹介する3人の女性は、子どもの頃に甲状腺の手術を受け、子ども基金の保養プロジェクトに参加したことのある人たち（年齢は30〜40代）です。

ユーリヤ：ドネツク市在住

（*ドネツク市は2014年からロシア側支配地域にあります。）

2023年1月19日

私の住んでいる町は相変わらず危険です。大晦日の夜、家族でテーブルを囲んでいた時に、ロケット弾の飛び音がしました。それは今までに聞いたことのないような凄まじい轟音でしたのでとても恐ろしく感じました。ロケット弾は隣町のマケエフカに落とされ、そこはひどく破壊されました。でもここドネツクでも、家や幼稚園や、病院など、たくさんの被害がありました。ここでは静かな日というものほとんどありません。いつも誰かが、あちらから、あるいはこちらから攻撃しているのです…

昨年の秋頃と比べて、私の体調は悪くなっています。チロキシン（甲状腺ホルモン剤）の量が増やされましたが、これは副腎に悪い影響があります。またこの頃は血圧の変動が激しいのです。以前、血液検査のために自宅を訪問してくれた看護師は、戦闘の危険があるため、前のようには来られなくなっています。昨年秋は、戦闘の危険のないときは少し町を散歩することができました。でも今年に入ってから一度も外出していません。唯一幸いなことは、電気とインターネットがあることです。バーチャルであるにしろ、いろいろな人と交流をすることで、戦争や病気のストレスから一時でも解放されます。今年こそ戦争が終わるように、ウクライナの平和な人々がもう犠牲にならないようにと信じたいです。

インナ：キエフ（キーウ）からドイツに避難中。

12月11日

避難民のための生活支援金を受けながら、今も親類の家で暮らしています。私と夫は毎日ドイツ語の講座に通い、娘は学校に通っています。

キエフの家、母や妹のことがとても心配です。母はしょっちゅう電話をしてきて泣いています（もう会えなくなるのではないかと心配しています）。母も妹もこの戦争のすべての困難に耐えています。インフラが破壊され電気と暖房に大きな問題が起き、毎日空襲警報が鳴り、気温はマイナスの寒さ、食料品、医薬品など物価が高騰…。多くの人はロシアに関連するものすべてを嫌悪していて、ロシア語を話すことを嫌がる人もいます。そして最も恐ろしいことは、このような酷いことがいつ終わるのかわからないことです。本当にひどい1年でした。あまりに多くの出来事、大きなストレス。戦争は非常に多くの問題、費用、不安を生み出しました。何百万もの人々の生活が激変し、そして二度と以前のように戻ることはないでしょう。

日本では新年のお祝いの準備をしていますか？私たちは小さなツリーを飾りました。でも残念ながらお祝いの気分ではありません。クリスマスはヨーロッパで一番大きなお祝いです。この町でも町の中心でクリスマスマーケットが開かれ、そこではホットワインや食べ物を売る出店が並んでいます。子ども用の回転木馬もあります。キエフでもこのようなお祭りがありました（戦争の前まで）。でもそれはもっと賑やかで、心が躍るものでした。故郷の町、平和であった頃がとても懐かしいです。新たな現実を受け入れようとしています、とても難しいです。ここは何もかもが違うのです、自分の故郷にいたときとは…。

12月28日

ヨーロッパには難民がたくさん来ています。私たちの住む町も同様で、もう難民を受け入れていません。住居は通常の（難民向けというものでなく）条件で探さなければならず、もしよい部屋が見つければ、この国からの援助が得られます。でもそんなよい物件を見つけるのはほぼ不可能です。毎日天気が悪くて、灰色の空、雨…。ウクライナのニュースにいつも心を痛めています。

最近、こちらの病院で甲状腺の検査を受けました。悪い結果が出て、再検査が必要となりました。実はウクライナにいたときは、検査費用が高いのと、結果を知るのが怖いという二つの理由で数年間検査を受けていなかったのです。ここドイツでは検査費用は無料です。再検査で一体どんな結果が出るのか、新年を前にととても気が重いです。

子ども基金がこの困難な時にウクライナの子どもたちへの支援を続けてくれていることに感謝します！みなさんが大事な仕事を続けるために、どうぞ健康に、そしてストレスに負けないよう気をつけてください。

オクサーナ（ジトミル出身）：キエフ（キーウ）からチェコ経由でイギリス国内に避難中。

2023年1月12日・20日

私はイギリスにいます。一緒に避難してきた姉とともに英語と職業訓練のコースに通っています。2月1日から、ウクライナの教育機関の卒業証書がイギリスで正式に認められるようになります。これからどうなるかまだわかりません。良い仕事に就くにはさらに勉強する必要があります。姉の息子は学校に通っています。学校が好きで、サッカーもしています。

私たちがプラハに避難していたとき、町では毎月第1水曜日に警報サイレンが鳴らされていました。誰もが戦争について沈黙していますが、チェコ共和国も緊張状態にあり、備えができていないと感じました。それはとても恐ろしいことです。

子ども基金がウクライナの人たちを支援してくれていることに感謝します。どういうわけか、ウクライナには常に問題があり、人々は苦勞を強いられます。なぜロシアは新たな領土を必要とするのでしょうか。彼らにはすでに非常に大きな土地があるのに。でもそこに秩序はありません。

ウクライナにいる両親と毎日連絡を取り合い、ニュースをチェックしています。第三世界大戦になるのではないかと恐ろしく感じます。どうかそんなことになりませんように。世界の平和を祈ります。



ウクライナとベラルーシの子どもたちへクリスマスプレゼント

ウクライナとベラルーシ、両国のチェルノブイリ被災地域の病気の子
どもたちへのクリスマスプレゼント購入費用を支援しました。戦争の被害を
受けているウクライナの子どもはもちろんですが、ベラルーシは軍事侵攻
をしているロシアの同盟国であっても、その国の子どもには何の罪もあり
ません。暮らしている国によって支援する子どもを分けることなく、支援
活動を続けていきます。



ウ ク ラ イ ナ

【オヴルチ子ども芸術アカデミー】

ジトーミル州オヴルチ

12月30日、子どもたちのための集まりが開
かれました。ニコライ校長は、前日に森へ行
ってクリスマスツリー用の木を切ってきてホ
ールに運び、地下にある部屋で集いの準備を
行いました。子ども基金の支援により購入し
たクリスマス用のお菓子やジュースが手渡さ
れました。

下の写真では、「2023年チェルノブイリ救援
カレンダー」を手になっています。この芸術ア
カデミーに通っている子どもたちの写真は同
カレンダーの7月・8月の頁に掲載されていま
す。

手前の箱に入っているのは、子どもたちの
プレゼント用のお菓子とジュースで、子ども
基金のシールが貼られています。

前日、12月29日にウクライナ各地にミサイ
ル攻撃がありました。この集いが始まる前に

もオヴルチに空襲警報が出たため、子どもが
外出するのを恐れた親も多く、当日になって
参加を見合わせた子も少なからずいたそうで
す。

ベ ラ ル ー シ

【NGO 困難の中の子どもたちへ希望を】

ゴメリ市

12月24日、病気の子どもの会員のためのク
リスマス会が開かれました。親やボランティ
アの学生たちがクリスマスに合わせた衣装を
着て会を盛り上げ、ダンスや歌のプログラム
が行われ、プレゼントのお菓子やジュースな
どが手渡されました。昨年の夏に子ども基
金が開催した保養に参加した子どもたちは再
会を喜び合いました。会場に来られない子ど
もたちには、お菓子、果物、缶詰などの食品
が自宅に届けられました（p. 10の写真もご覧
ください）。





里親のページ

これまで里親支援金は、子ども基金からウクライナ・ベラルーシの支援団体の銀行口座へ送金し、各団体からそれぞれの家族へ直接渡していました。しかし昨年 2 月のロシアの軍事侵攻後、ウクライナでは国内での移動が危険になってしまったため、子ども基金からそれぞれの家族の口座へ直接送金をしています。ベラルーシの場合、経済制裁の影響により従来の銀行経由で送金ができなくなり、その都度、送金可能な銀行を探すという不安定な状態が続いています。昨年 12 月には前回と別の銀行経由で送金ことができましたが、ベラルーシ国内での手続きが厳しくなり、非常に時間がかかっているということです。現在支援を受けている里子の状況と、新たに支援が決まった里子についてご報告します。

* * * * *

<ウクライナの里子>

サーシャ・Z (15 歳) ナロジチ市

胆道機能不全。現在体調は安定している。戦争が始まってからもどこにも避難せず、家族全員で家の地下に避難していた。町の子どもたちはほぼ避難したがサーシャは両親と家に残ることを選んだ。母親は体調を崩し 9 月に入院した (10 月に退院)。その時ドンバスでの戦争に参加していた長女のヴェロニカは緊急に休暇を取って自宅に戻ってきた (ヴェロニカは昇進し戦闘勲章を授与された)。サーシャは学校の勉強 (オンライン授業) に非常に真剣に取り組んでいて、9 年生修了後はさらに別の教育機関で学ぶことを希望している。両親の畑仕事をよく手伝っていて、また母が祖母から受け継いだナロジチ近郊の村の家の修理も手伝っている (家は空爆でひどく損傷した)。

ヴラッド・V (12 歳) ナロジチ市

脊椎の筋委縮症。戦争開始の最初の夜、家族は家の地下で過ごした。しかしヴラッドは体調が悪くなり、2 日目には避難をした。2 週間後にはまた自宅へ戻ってきた。ヴラッドは空襲警報が鳴ると、家の中で一番安全な場所に隠れるようになった。現在はリハビリ専門医の指導の下、自分で体を動かせるようになった。手でスプーンを持つこともできるようになり、さらに少し言葉を発するようになっている。家ではネコと遊んだり、ゲームをしたりして過ごしている。

※以前ヴラッド君は自分で座することもできず、言葉も発せず、横になっているだけでした。医師からは良くならないと言われていたが、家族は長年マッサージなどの治療を続けてきました。

<ベラルーシ 新たな里子>

クセーニヤ・S (5 歳) ゴメリ市

左肺の悪性未分化多形細胞性肉腫 (悪性の軟部腫瘍)。2020 年 11 月に気管支炎にかかり、咳が長く続いた。超音波検査の結果、左肺に腫瘍が見つかった。9 ブロックの化学療法を受けた。2021 年 8 月に腫瘍を取り除く手術を受けた。現在は小康状態を保っている。8 歳の姉、3 歳の弟がいる。

ルスラン・N (5 歳) ゴメリ市

膀胱の胚性横紋筋肉腫 (筋骨格を形成する軟部組織から発生する悪性腫瘍)。障害児に認定されている。2021 年 1 月、腫瘍摘出手術を受け、化学療法と照射療法を受けた。腫瘍は完全には取り除かれず、一部が残っている。3 か月に一度、小児がんセンターに定期検査に通っている。子ども用コンピュータを使って自分でアルファベットを学び、小学校の入学の準備をしている。母子家庭。



クリスマスプレゼントを自宅で受け取った
ルスラン君

『里親制度』日本の里親が一人の子どもに対し、月 50 米ドル相当を 2 年間支援していただくものです。2 年後に再度里子の情報をお伝えし、支援の継続・終了を決めていただきます。『里親制度』にご関心のある方は事務局へご連絡ください。詳しい資料をお送りします。

チェルノブイリの歌声

★地道なご活動、頭が下がります。ニュースレターは充実した内容で、編集など大変な労力を感じさせられています。（三重県 Mさん）

★NEWS No. 123 の衝撃的な記述に驚きますとともに、痛々しくもあり、それ以上に懸命に生きようとする「希望」を感じました。（愛知県 Kさん）

★とても素敵なカレンダーありがとうございました。子どもたちが生き生きしていますね。カレンダーには、核に関する事故日や原爆投下日が記載されており、記憶を新たにするためにも、良いことだと思います。（千葉県 Kさん）

★今年2月ロシアのウクライナ侵攻が始まってから、カレンダーを見るたびに、重い気持ちになります。救援をなさっている皆様はなおさらのことと思います。かつて、1986 年直後、関西にて救援活動に参加していた者として、36 年に渡る皆様のご活動に敬意を表します。ご苦労様です。有難うございます。（京都府 Sさん）

★毎年のカレンダー、楽しみにしています。会報もありがとうございます。勉強になります。原発推進の動き、ロシア軍のウクライナ侵攻、許しません。福島原発事故の被害者の若者たちの訴訟活動、応援しています。（愛知県 Jさん）

★ウクライナの情勢が一向に良くならず、子ども、まわりの大人たちのことが心配でなりません。また、原発が標的の対象となるなど、人類にとって絶対にプラスにならないことが行われていることに非常に怒りを覚えます。改めて、すべての人が、原発がこういうものなのかをしっかりと認識することが大事だと強く思っております。（神奈川県 Tさん）

★2023 年カレンダー、今年は戦争被侵略国ウクライナへの支援も込めて、友人らへのプレゼントにします。（東京都 Mさん）

★ウクライナとロシアの長引く戦争により現地の人々はもちろんのこと、日本からの応援に入る人たちの身をも案じております。1日も早い紛争の終結と平和が訪れ穏やかな日々が戻りますよう祈っております。私たちに「大切なこと」を忘れずにいるために…。カレンダーが生活の中にあることに感謝して。（埼玉県 Kさん）

★戦争で得をする人がいるから終わらない。戦争をやめる気がない人々を早く止めたいが、どうすればよいのか。人間は恐ろしいです。（大阪府 Tさん）

★新型コロナウイルスのまん延やロシアによるウクライナ侵攻の中にあっても、この夏ベラルーシなどで子どもたちの保養が行われてよかったと思います。子どもたちの笑顔の写真をみると、ほっとしてきます。（愛知県 Sさん）

★子どもたちが不安や悲しみのない世界で暮らせるようになりまうように…と、切に願います。（東京都 Kさん）

★ウクライナの支援団体の方がお亡くなりになったことは残念です。けれど保養を喜び、私たちに感謝して下さる方々のお声が嬉しいです。子ども基金さんと知り合い、支援できることに感謝します。（千葉県 Tさん）

★昨年の侵攻の開始から早一年が経とうというのに、ウクライナの状況はよくなりず、兄弟国同士なのに何故、という思いで心が痛む毎日です。このままでは今は幼い子ども、その子孫まで何十年、何百年単位で憎しみが続いてしまいます…。ウクライナはもちろん、自分の里子や他のベラルーシの子どもたちも心配です。市民のみなさんはみな平和を望んでいると思います。今はせめて、命を脅かされることのない穏やかな日々が一刻も早く戻ることを願っています。（東京都 Sさん）

★10 月のニュースレターを拝見し、活動を続けていらっしゃる皆様の努力に頭が下がります。2023 年のカレンダーは、ウクライナとベラルーシの子どもたちが仲良く交互に写る姿が微笑ましいです。私が暮らしている宮崎県にもウクライナから避難されている方々がいます。（宮崎県 Kさん）

★ニュースレターをありがとうございます。ウクライナ侵攻はいつやむのだろうか…。心配しかできませんが、貴重なご報告の数々、じっくり読ませていただきます。（京都府 Nさん）

★ウクライナの子どもたちに早く平安の時が訪れますよう祈るばかりです。（兵庫県 Sさん）

★活動のお手伝いができて幸福です。応援しています。（東京都 Kさん）

2022年度決算報告書
【2022年1月1日～12月31日】

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越	16,550,966	救援	
募金		医薬品・物品	1,073,275
救援一般	9,461,149	保養費	2,315,615
保養費*1	776,690	団体運営費*2	532,380
里子支援	3,702,800	里子支援	4,033,099
ウクライナ緊急支援	4,324,931	緊急支援*3	952,325
		ウクライナ緊急支援	6,920,343
		派遣費	0
		送金・為替手数料	88,210
		福島子どもへの支援	
		未来の福島こども基金	124,655
救援キャンペーン		救援キャンペーン	
賛同金	28,000	2022年4月イベント	30,300
ニュースレター購読料・運営費	495,400	事務運営費	
預貯金利息	89	国際 Tel・Fax	0
		国内 Tel・Fax	90,281
		印刷・コピー費	41,300
		ニュースほか発送費	455,019
		人件費	2,321,686
		交通費	120,166
		事務消耗品費*4	346,276
		事務所費	869,027
		広告・宣伝費	
		資料・会議費	800
		国内振込手数料	28,570
物販売上		物販仕入	
本・ポストカード・CD・民芸品	99,354	本・ポストカード・CD・民芸品	25,701
カレンダー2022	273,500		
カレンダー2023	1,227,340	カレンダー2023	679,709
小 計	36,940,219	小 計	21,048,737
		次期繰越金	15,891,482
合 計	36,940,219	合 計	36,940,219

*1 旧振込用紙項目「特別保養費」→「保養費」としました。

*2 現地団体のスタッフ給与、事務所費など。年内に送金したのはウクライナの団体のみ。ベラルーシの団体へは2023年春頃送金の予定です。

*3 病気の子どものいる16家族を支援しています。

*4 事務用PCが壊れたため新たなPCを購入しました。

※カレンダーの収入・支出とも次年度にまがります。
2022年度版のカレンダー収益は641,169円でした。

2022年度の会計監査の結果、適正であることを認めます。

2023年1月31日

会計監査

監事

鈴木 由利子

監事

清水 玲子



募金・救援状況



●募金状況	2022年10月～2023年1月				(単位：円)
	10月	11月	12月	2023年1月	
募金件数	142	272	204	71	
救援寄付金	427,308	1,002,454	1,599,253	366,640	
保養費	100,300	70,700	74,400	6,600	
里子支援	181,650	161,480	49,800	1,551,820	
ウクライナ支援	242,000	171,611	193,200	41,000	
ニュース購読費	26,000	70,000	66,000	20,000	
合計	977,258	1,476,245	1,982,653	1,986,060	

* その他、切手、文房具のご寄付をいただきました。

●救援状況 2022年10月～2023年1月 (単位：円)

<ウクライナ>	
◎チェルノブイリの子どもたちの生存	
里子支援（半年分×4人）	171,544
緊急支援（半年分×3人）	128,354
運営費：通信費、家賃、スタッフ給料×2人 (2023年1月～12月分)	532,380
ウクライナ緊急支援	
①オヴルチ子ども芸術アカデミー	
ノートパソコン	182,130
子どもたちへのクリスマスプレゼント代	140,100
②ナロジチ公立初期医療ヘルスケアセンター	
医薬品、医療機器、電力装置	1,401,000
③オヴルチ市立病院	
医薬品、医療機器	1,260,900
④チェルノブイリ被害者の若者への直接支援	
	45,000
<ベラルーシ>	
◎困難の中の子どもたちへ希望を	
里子支援（半年分×47人）	1,679,242
緊急支援（半年分×13人）	519,765
医薬品（甲状腺ホルモン剤、カルシウム剤）	967,365
子どもたちへのクリスマスプレゼント代	105,910

★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

(1) 郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2) ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 〇一九店(ゼロイチキョウ店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリコドモキキン

(3) 三菱UFJ銀行 支店名(番号): 新宿中央支店(469)

口座番号: 普通 1688367 口座名: チェルノブイリ子ども基金

♡ 団体名一覧 ♡

(順不同・敬称略)

紙面の都合上個人名は省略させていただきます。ご寄付をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

【10月】ひばりが丘グレイス協会、未来の福島子ども基金、横浜桐畑協会、ピースライブインこうち【11月】山田屋歯科医院、日本ウクライナ文化交流協会、武田医院、日本キリスト教団奥中山教会、未来の福島子ども基金、川和保育園父母の会、原発の恐ろしさを知る会、川崎市職員労働組合、NPO 法人福島子ども保養プロジェクト@練馬、株式会社アウレオ、非核・平和を求める写真絵画展事務局【12月】広島のうたごえ協議会、大阪友の会、ストッププルトニウム神奈川連絡会、日本キリスト教団代々木上原教会、恵泉女学園中学・高等学校宗教部、中振キリストの教会、川和保育園、WATER MARK arts & crafts、大阪北教会婦人部、友愛富士見町保育園【2023年1月】広島女学院中学高等学校、フォークダンスを楽しむ会、ふえみん婦人民主クラブ、日本キリスト教団伏見教会、イエス・キリスト教会祈りの家

※子ども基金が支援したのものにつきましては、現地団体が購入後、領収書と写真を含めた報告を送っております。

★2023年チェルノブイリ救援カレンダー在庫ございます！

お買い忘れの方、ぜひ3月からお使いください。1部800円・送料別(9部まで200円)。収益は次号ニュースレターでご報告します。



事務局から

■4月15日「中筋純さん講演会」賛同金募集(一口1,000円) 同封の振込用紙に手書きでご記載のうえお振込みください。

■子ども基金の印刷物やウェブサイトでは、ウクライナの地名や人名について当面原則としてウクライナ語式・ロシア語式を併記、併用し、意識的に一方に統一しないこととしています。

■「基金ニュースレター」について

ご寄付をくださった方に、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。ニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

※ニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。

※ニュース発送経費を節約し、なるべく多くのお金を子どもたちの保養や医薬品に活用したいと思います。そのため長期間、募金・カレンダー購入などのお振り込みがない方へのニュース発送は停止とさせていただきます。事情をご理解いただけましたら幸いです。

■ボランティア募集

ニュース発送作業(年3回:2・6・10月):お手伝いいただける方を募集します。次回は、2023年6月中旬の予定です。感染対策のため日程・定員が流動的です。事務局へお問い合わせ下さい。

場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ10階)

※参加ご希望の方は、前日までにメールかお電話でご連絡ください。電話は平日午前10時～午後5時。留守の場合は伝言をお願いします。

~~~~~

★編集後記★ 昨年2月、ニュースレター発行準備に慌ただしい中、ロシアがウクライナに大規模侵攻との一報…あれから早1年、再び「光の春」を迎えました。事務局では現地の子どもや関係者の無事を祈る思いで確認しては必要な支援を届ける緊張の日々が続いています。この戦争では、私たちが長年支援を続ける2つの国が攻

\*\* ご協力いただいているみなさまへ \*\*

振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

### すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

### 払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で

#### ご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で受領確認の連絡をご希望の方に、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

### 「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収証がご入り用の際は振込用紙の該当欄に印をつけてください。

撃を受ける側と攻撃に協力する側とに分かれてしまいました。それぞれの国の人のことを思うと、もどかしさ、やりきれなさで一杯になります。しかし、戦争も圧政もいつかは終わるはず。「その時」を信じて、今は自分たちに出来ることを丁寧に、現地の人々の思いに寄り添いながら支援を続けて行きたいと思っています。この間、多くの方から、ウクライナ支援やチェルノブイリの子どもたちへの支援に対してあたたかいお言葉を頂戴しています。全部は掲載できませんでしたが、「チェルノブイリの歌声」(11頁)をご覧ください。活動を支えて下さっているすべてのみなさまにこの場を借りてお礼申し上げます。

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(2・6・10月)発行●

住所 〒177-0041 東京都練馬区石神井町3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト <http://ccfj.la.coocan.jp/>

◇事務局ブログ <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>

※当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。

